

アルゼンチン債務問題とは？

アルゼンチンが世界主要紙に意見広告

財政危機のアルゼンチンが、6月25日の世界の主要新聞(日本では朝日新聞朝刊)に異例の意見広告を出しました。2001年に国の債務(借金)を返せない**債務不履行(デフォルト)**になり、投資家への返済額を減らしてもらって財政再建を進めてきましたが、一部の投資家から全額返済を求められているため、「債務返済を継続したいが、継続させてもらえない」と苦境を訴えています。

そもそもの発端は、2001年のアルゼンチンが外貨建債券約950億米ドルに対してデフォルトを宣言したことでした。その後の交渉で、約92%の投資家は同国の債務再編に応じましたが、アメリカのヘッジファンド等の残り8%の投資家はこれに応じず、全額返済を求めていました。そして2014年6月16日に、アメリカ最高裁判所は、アルゼンチンが債務再編に応じなかった投資家に対して13億3,000万ドルを支払うことを求めた連邦地方裁判所の判決を支持する判決を下しました。

債務再編を受け入れた債権者に対する利払いは2億2,500万ドルがありましたが、それをアルゼンチンが支払うと、再編を拒否した債権者に過去の債務再編時よりも良い条件を提示することを禁じる契約に違反する恐れがあるため、「債務返済ができない」と意見広告で窮状を訴えることになったのです。

経済大国から没落したアルゼンチン

アルゼンチンは、かつては世界有数の経済大国であったそうです。しかし第二次大戦を境に経済成長が鈍化し、現在では発展途上国レベルの経済水準とされています。アルゼンチンが高成長を維持できなかったのは、産業構造の転換に失敗したことが主な原因と考えられており、経済大国が凋落する典型例とされています。

戦後の高度成長に取り残されたアルゼンチン経済はオイルショックをきっかけにさらに低迷し、累積債務問題が発生、急激なインフレが進行しました。そこで同国は、民営化と規制緩和を積極的に推進するとともに、事実上の固定相場制を採用し、これによってハイパー・インフレは収束し、経済は一時的に小康状態となっていました。

ところが隣国ブラジルが1999年の経済危機で大幅に通貨を切り下げたことから、アルゼンチンの実質的な為替レートは割高となり、企業の輸出競争力が一気に低下、この結果、財政収支が悪化し、対外債務の支払い能力に市場から疑問符が付き始めました。銀行からの預金引き出しと海外への資金流出が激しくなり、2001年12月には銀行の預金引き出し規制が実施され、同月末に、公的対外債務の一時支払停止が宣言され、アルゼンチンはとうとうデフォルトとなってしまいました。

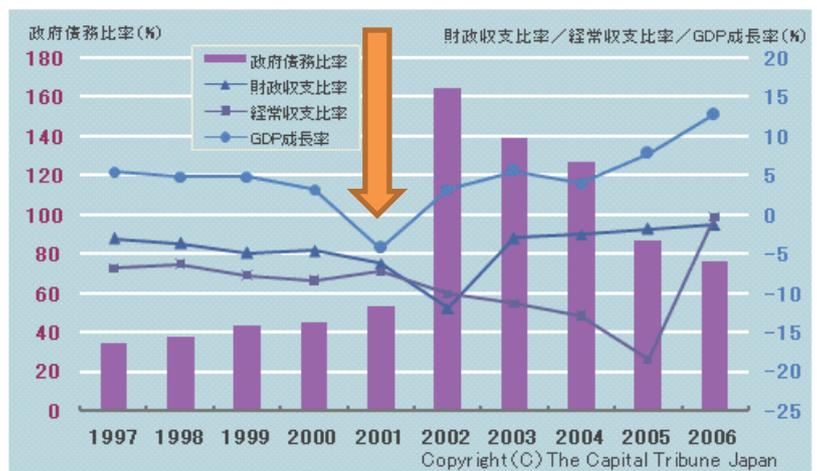
右はデフォルト前後5年間のアルゼンチン経済の状況を示したものです。2001年にデフォルトを起すまでの数年間に、政府債務の増加、財政収支の悪化、経常収支の悪化がすべて同時に進行しています。数字が急激に変化するのはデフォルトが発生した年であり、その直前までは比較的ゆっくり事態が進展しています。これは近年の欧州の債務危機でも同じであり、市場がそれを織り込み始めるときにはすでに事態がかなり悪化していることが多いようです。

右はデフォルト前後5年間のアルゼンチン経済の状況を示したものです。2001年にデフォルトを起すまでの数年間に、政府債務の増加、財政収支の悪化、経常収支の悪化がすべて同時に進行しています。数字が急激に変化するのはデフォルトが発生した年であり、その直前までは比較的ゆっくり事態が進展しています。これは近年の欧州の債務危機でも同じであり、市場がそれを織り込み始めるときにはすでに事態がかなり悪化していることが多いようです。

数字が急激に変化するのはデフォルトが発生した年であり、その直前までは比較的ゆっくり事態が進展しています。これは近年の欧州の債務危機でも同じであり、市場がそれを織り込み始めるときにはすでに事態がかなり悪化していることが多いようです。

今回は国債の返済ができずデフォルトすると、その国民の生活がどうなるのか見てみましょう。

デフォルト前後のアルゼンチン経済



Copyright (C) The Capital Tribune Japan